

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1470300441
法人名	医療法人社団 仁徳会
事業所名	グループホーム フィニックス
訪問調査日	平成23年11月28日
評価確定日	平成24年1月23日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470300441	事業の開始年月日	平成10年2月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	医療法人社団人徳会			
事業所名	グループホームフィニックス			
所在地	(220-0062) 横浜市西区東久保町35.20			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	20名	
		ユニット数	3ユニット	
自己評価作成日	平成23年10月22日	評価結果 市町村受理日	平成24年1月31日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の下で、食事、入浴、排泄等の日常生活の世話及び心身の機能訓練を行うことにより、あんしんと尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ可能な限り自立を営む事が出来るよう支援する事を目的とし、健康な生活の質を確保するべく医療機関と連携協力し地域社会で幸せに生きる喜びを得られるように社会福祉に貢献する。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年11月28日	評価機関 評価決定日	平成24年1月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームの経営は医療法人社団 仁徳会で、仁徳会は平成10年2月にデイサービスと1ユニット(8名)のグループホームを併設開所した。平成16年2ユニット(各定員6名)を増設して3ユニットとし現在に至っている。ここには1Fに小規模デイサービス(25名定員)と、2Fに認知症デイサービス(10名定員)があり、南区の井土ヶ谷には五常デイサービスを展開している。地理的には相鉄線西横浜から徒歩10分程度の高台にあり、比較的古くから開けた、下町の暖かさがある住宅地にある。このホームの特長はなんと云っても生駒医院は地域医療として親しまれ、50年の実績があり、連携による安心感がある。理念は住み慣れた町で幸せに生きることを基本とし、理念の「ゆとり」「ゆったり」「悠々」を3つのユニット名とし、いつも理念と一緒に生活している。地域にいて、地域に守られているので、ホームとして地域に向けて何かをしたいと、地域への貢献を考えており、運営推進会議で協力を表明している。医療も介護も備蓄もあることも知らせている。

②生駒医院との繋がりと、下町的な地域特性から、ご近所からの入居が多く、盆おどりなども地域の1員として違和感無く参加し、入居者を通じてホームでの満足感が地域に伝わると云う、良い循環が生まれている。地域の方同士のため家族同士も仲が良く、年1回の家族会、日帰り温泉旅行、MM21の花火、お墓参り、外食、ジャズ祭など家族と一緒に楽しむイベントが定着している。横浜市の委託事業をグループホーム協議会が受けて、各グループホームの発表会を行っている。学校との関係では幼稚園・保育園児の訪問、中学生の体験学習の受入等を行っている。隣のデイ(民謡、フラダンス、歌謡ショー等)、南区の五常デイ(マリオネット等)を観に行き一緒に楽しんでいる。町内の盆おどりでは、座席を用意頂き招待して頂いたり、アニマルセラピー犬がホームまで来てくれたりと、地域のお世話を頂きながら楽しく過ごしている。

③職員については、スタッフの質の向上が求められる中、教育には重点的に取り組んでいる。基本的に問題意識を持つことを基本に置き、例えば今回の外部評価についても、自己評価表を全員に配り、自分たちのサービスが他から見て適切なのかどうかを皆で考えてもらっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームフィニックス
ユニット名	悠々

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット、職員室等のいつでも見れる場所に掲示している。スタッフミーティング等で話はしている。ホーム設立時に職員が作ったユニット名になっている。「悠々」「ゆとり」「ゆったり」を基本とし誰もが分かりやすく原点に戻れるユニット名としている。	理念はホーム設立時に職員が作り、ユニット名の「悠々」「ゆとり」「ゆったり」とし、誰もが分かりやすく原点に戻れるようにしている。各ユニット、職員室等のいつでも見れる場所に掲示している。日々の業務の中で、スタッフ同士が理念を常に確認し合えるホームにしていきたいと考えている。各ユニットに責任者を置き、ユニット毎に任せる体制とし、何か一緒にやる場合には、各ユニットから委員を出してミーティングで決めるようにしている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。地域の商店で買い物をしたり選挙や祭り、盆踊り等にも参加している。ホーム内の敷地をゴミ置き場として提供したり、災害時の避難場所として事業所を提供する旨を町内会長にも申し出をさせていただいた。	自治会は個人別に加入している。回覧版、町内会だよりも回ってくる。地域の商店で買い物をしたり、地域のお祭り、盆踊りにも参加している。隣家の方にはホームのゴミ置き場を利用して頂く等、災害時の避難場所として事業所を提供する旨を町内会長にも申し出をしている。ボランティアはデイで受け入れ、南区の五常デイのイベントにも参加している。近所の退去された方のお孫さんなどが遊びに来ている。中学生の体験学習も受入れている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は夜間想定避難訓練を地元消防署、町内会の協力を得て早い時期に行うことが出来た。毎月行われる自治会等、折に触れホームの状況を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6回の運営推進会議の実施は出来ていないが10月の運営推進会議で自治会長、民生委員の方たちの承諾を得ることが出来、次年度から年6回の予定を組むことが出来た。地域の方の声をミーティング等で話し合いそれを現場につないでいく努力はしている。	今年度は6回の運営推進会議の実施は出来なかったが、10月の運営推進会議で自治会長、民生委員の方たちから、次年度から年6回の予定を組むことの承諾を得ることが出来た。運営推進会議のメンバーには町内会長、民生委員（2名）、家族（2名）、入居者の参加を頂き、西区高齢支援課、地域包括支援センターそれに必要に応じて消防団の方を交え積極的な意見の交換を行なっている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年一回西区4ホームの管理者と区役所側とで情報交換の場を設けている。高齢支援課、生活保護課には日常的に通うようにしている。今年度はキャラバンメイトの講義も担当させて頂いている。	西区役所の高齢支援担当や生活保護課には必ず月一回のペースで連絡を入れ、情報交換している。特に生保利用者の相談では連絡を取っている。ここ数年は、区内4つのグループホームの管理者と高齢支援課を中心とした情報交換の場をフィニックスで設けている。今年度はキャラバンメイトの講義も担当させて頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0」を実践している。エレベーターの位置が死角に入るため安全のために暗証番号になっているがそれは必要と感じている。他に内階段、外階段を設けている。	「身体拘束0」は実践しているが、エレベーターは安全のため暗証番号になっている。屋上等自由に出入りしてもらっており、閉塞感が無いケアに努めている。玄関の鍵は閉めても「心の鍵」は閉めないことに徹している。言葉の問題については、遣った人はもとより、見て見ぬ振りをする人も同罪と話しており、皆で注意して取り組んでいる。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待防止の研修には各ユニットから参加している。ミーティング及び日常的に虐待防止の訴えに努めている。特に声かけ対応については注意をしている。自分が言われたら嫌な事、されたら嫌な事は絶対に言わない、しないを基本姿勢としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人のついている入居者が増えてきていることもあり、必要性は感じているがスタッフの研修回数としては少ないと思う。今後、事業所内外の研修の必要を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約成立まではある程度回数を重ねて、面談、訪問を重ねている。出来る限りご本人に一度ホームへ足を運んでもらい見学、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には必ずご本人の様子を伝えるようにしていると共に意見、要望を伺うようにしている。全てが運営に直に反映されているかという点と難しい。	常に利用者が意見を言いやすい機会を作る努力をすると共に、家族に対しては面会時に本人の様子を話すと共にそれとなく家族の意見、要望を伺うようにし、出来る限り運営に反映するようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に聞く機会を設けていないが月1回のミーティング又は日常の会話の中で聞き取り反映につなげている。スタッフと管理者との1対1の会話は心がけている。	特別に聞く機会を設けたりしていないが、月1回のミーティングまたは、日常会話の中で聞き取り、反映に繋げている。個人的な問題があれば管理者との1対1の会話を心がけ、面接も行うが、日常的には夜勤明けの時に話し合える機会を利用している。キャリアパスについては、処遇改善につなげるよう対応している。面接と云うと構えるので、普通に時間を取って話すスタイルで機会を作っている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニット共に職員室を設け、休憩時間には完全に入居者と離れられる時間として60分間取っている。夜勤・明け・休みのパターンを極力崩さない努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修参加を心がけている。シフト的に難しいときもあるが、年々参加回数、参加人数も増やすことが出来ている。しかしまだ不足していると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所外の研修、講演会、現場研修等に参加し、他のホーム、他の事業所との交流を心がけてはいるが、もっと地域の中で実践していきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談、ご家族からの情報を得ながらご本人との会話、様子を観察し理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、心配事をスタッフ間で共有し、観察しながら一つ一つ確認し、その結果を伝えていく事から関係作りを行っている。フェイスシート等を利用し職員も把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞きながら、支援の対応を見極めている。新たな支援が必要となったときには家族と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を一緒に共有しながら過ごしている。本人の出来ることは見守り、出来ないことをサポートし、その人らしき生活出来るよう心がけている。「見て上げる」と言う気持ちになることなく「看させて頂く」の気持ちでその人に添って生活することを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出は基本的に自由にして頂いている。本人の情報を家族と共有しながら援助している。家族と過ごす時間を優先している。又それに伴い援助している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の承諾があれば友人、知人との外出等も自由である。毎週友人と外出を楽しむ入居者もいる。墓参り、旅行、結婚式等々、家族親類と楽しんでいる。ただ、同行者には本人の今の状態を説明し、混乱やトラブルがないように事前に話し合っている。	家族の承諾があれば友人、知人との外出等も自由である。毎週友人と外出を楽しむ入居者もいる。墓参り、旅行、お孫さんの結婚式等々、家族親類と楽しんでいる。ただ、同行者には本人の今の状態を説明し、混乱やトラブルがないように事前に話し合っている。生駒病院に外来で来た人が寄られたり、友人に誘われて麻雀に行ったり、ペットショップの主人が寄って下さる等、近所との関係は継続している。兄弟のお葬式にも出ている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り会話が成立できるように努めたり、話題提供をしている。入居者同士の関係が成立している場合は、あえてスタッフはその中に入らず見守りの状態。作業、レクリエーション等は声かけはするが、あえて強制はせず、何らかの形で参加できればよいと思っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の方が多い為、特養等へ退去された利用者の家族、亡くなられた家族等が立ち寄って下さったり、相談事で来所されるケースもあります。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との日常的な会話の中や様子で観察するなかで、何がしたいのか、何が出来るのか、何が心配なのかを知るように努めている。それをミーティング等で話し合い、ケアプランに反映させている。	本人との日常的な会話の中や様子で観察するなかで、何がしたいのか、何が出来るのか、何が心配なのかを知るように努めている。それをミーティング等で話し合い、ケアプランに反映させている。利用者の思いについては出来ること出来ないことシートを活用し、その人の言葉でそのままを個人の日誌に記入し、仕草を見てカンファレンスで拾い上げ、プランに繋げるようにしている。独居の人についてのアセスメントは、入居後も継続して確認を続けている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや本人、家族からの話を出来る限り聞くように努め、日々の会話の中でその人の生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に対応しながら、その人に適した時間の過ごし方を考えている。記録の徹底や日々のミニミーティング、スタッフ間で共有できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミニミーティング及び月1回のミーティング、出来ることシート、出来ないことシートをケアプランに反映させている。またご家族にもお話を聞くように努めている。基本的にケアプランは三ヶ月に一度の見直しをしているが、その人の状況に応じてその都度見直しをしている。	毎日のミニミーティング及び月1回のミーティング、出来ることシート、出来ないことシートをケアプランに反映させている。また、ご家族にもお話を聞くように努めている。基本として3ヶ月に一回、介護計画の見直しを行い、作成し、また現状の変化あればその都度見直しを実施している。ほとんどのご家族は週1回、週末には面会に来て頂いている。面会の折には介護計画を示し、ご意見を聞き、計画に反映させている。部分的にセンター方式やICFの考え方を取り入れている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌、生活日誌、連絡ノートの記入をし、ミーティング等で気づきを上げて、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所のデイサービスとの交流も図り、ボランティア来所時には誘いを受け出かけたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療への受信、自治会への参加、商店街の利用、西区役所、小中学校、幼稚園との関わり等支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の希望で自由に選択されている。受診に際しては、医療関係者と連絡ノート等を作り、情報を共有しながら支援に努めている。	かかりつけ医は本人及び家族の希望で自由に選択出来るように話しているが、生駒医院の患者さんが多いので生駒医院を主治医とする方が圧倒的に多い。生駒医院が主治医であることは職員の安心感、医療連携の安定感につながっている。受診に際しては、医療関係者と連絡ノート等を作り、情報を共有しながら支援に努めている。管理者が看護師であるのも安心の材料となっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	理事長が併設している医院の院長であり、管理者は看護師であり、併設してあるデイサービスにも常時看護師が常駐している為、支援しやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時には必ず関わりを持つようになっている。医療、家族を交えてのカンファレンスには管理者、時にはフロア責任者も必ず参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応に関わる指針」の同意を得ている。契約時にターミナルに関わる件も医師である理事長を交え家族、本人の気持ちを聞いている。	契約時に「重度化した場合における対応に関わる指針」の同意を得ている。契約時にターミナルに関わる件も医師である理事長を交え家族、本人の気持ちを聞いている。終末期に近づいたら医師を交えて方向性を決めている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを手引きとして備えてはいるが、全ての職員が急変時に適切な対応が出来るかと言えば難しい。実践力を身につける訓練をしたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成13年より年2回の昼間の訓練は消防署に来てもらい実施している。平成22年に夜間対応の訓練を地域住民、消防署の協力をしてもらい実施。日中の訓練は法人として年2回をそのまま継続予定。夜間想定訓練は地域住民の協力を得て年1回を予定している。	平成13年より年二回の昼間の避難訓練は消防署に来てもらい実施している。平成22年には夜間の想定訓練の実施を行い、消防署の協力や地域住民の協力を得られた。災害時、ホーム利用者の避難場所として、町内会館を開放して頂ける旨を自治会長より申し出を頂き、地域の協力体制を頂き有難く思っている。夜間想定訓練も地域住民の協力を得て年1回を予定している。3.11以来、備蓄も水、食材、寝具、衛材などを持つようになっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは十分に気をつけているが、行動については時々、利便性を先行してしまうスタッフもいる。声の大きさにも気になる事もある。「人生の先輩である事を忘れない支援」を基本としている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについて、職員は、言葉かけは気を付け互いに注意し合い、より良いケアの体制に努めている。スタッフの声の大きさについても気をつけるよう配慮している。「人生の先輩である事を忘れない支援」を基本としている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のお茶（コーヒー、紅茶、昆布茶）を選んでもらったりと、特別なことではなく日々の生活の中で自己決定の場面を心がけたり本人の思い、希望を大切にしていこうと努めている。しかし、スタッフによっては自分の意見が前に出てしまっている場面も見られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は大切にしつつ、本人のペースを守るように努めている。個々の希望が全て叶えられるかという難しいが極力希望に添えるように努力してはいる。しかし、場面によってスタッフの都合優先と見受けられるときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせたもの（口紅、マニキュア、化粧品、洋服）を使用し本人の思いを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作るまでのプロセスを楽しんでもらいたい気持ちで支援している。野菜切り、下準備、味見、盛り付け、配膳、そして後片付け、洗い物までを強要はせず出来る方が参加をもらっている。食事は職員も一緒に楽しんでもらっている。	食事を作るまでのプロセスを楽しんでもらいたい気持ちで支援している。職員がメニューを作り、利用者の要望を入れながら全体の分を作成し、3ユニットで共用している。地元のスーパー、酒屋への買い物、電話による注文・配達で食品を献立に沿って調達している。まず、ご利用者に食事を楽しんでもらうことを心がけ、一緒に準備、片づけをすることを大切にしている。栄養バランスは西区の管理栄養士に見てもらっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が決められている利用者には毎日摂取量を記録し支援している。西区管理栄養士に年一回献立を見てもらい指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。スタッフは見守り、声かけ、又は介助をしている。義歯の方は夜間、洗浄剤等を使用し、清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用しスタッフが排泄サイクルを把握し、声掛けや誘導でサポートしている。トイレでの排泄を優先し、誘導を支援している。	必要な人には排泄表を使用して、スタッフが排泄サイクルを把握し、声掛けや誘導でサポートしている。日常のサインを職員が把握しており、基本的にはご利用者のサインを見逃さず支援するよう努めている。トイレでの排泄を優先し、誘導を支援している。水分を充分採取し、ヤクルト、植物繊維、カフェオレ、ココアなどで便秘の予防に対応している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	足の運動等、適度な運動を促している。食べ物（食物繊維等）の工夫等。ヤクルトを飲んだり、水分摂取量に注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	デイサービスと共有のため、午後使用となっている。又、勤務上決まった時間での支援となっているのが現状。ただ、失禁等があった場合は、その都度対応している。	デイサービスと共有のため、基本的には午後使用となっている。又、勤務上決まった時間での支援となっている。毎回入浴する方や個々の体調に応じて、個々に対応している。失禁等があった場合は、その都度対応している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の状態を観察しながら支援している。出来る限り日中の覚醒、離床を促し夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量に関してはユニットの薬を管理するスタッフにより、毎回整理され分かるようになっていく。薬の使用目的は把握しているが副作用までの把握という点で全スタッフは難しい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、裁縫、パズル、歌等その方にあつた対応を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は日常の中に取り入れているが、全員の希望を叶えられるかというところは現状難しい。日帰り温泉、初詣、菖蒲園等の対応は心がけている。同敷地内のデイサービス又、南区のデイサービスへの外出も心がけている。家族知人とは墓参り、外食、旅行等を自由に楽しんでいただきながら支援している。	買い物や散歩は日常の中に取り入れているが、全員の希望を叶えられるかというところは現状難しい。日帰り温泉、初詣、菖蒲園等の対応は心がけている。同敷地内のデイサービスや、南区の五常デイサービスへの外出も心がけている。地域の方同士のため、家族同士も仲が良く、年1回の家族会、日帰り温泉旅行、MM21の花火、お墓参り、外食、ジャズ祭など家族と一緒に楽しむイベントが定着している。菖蒲園は時期外れに行き、貸切で寝転がってくる等、外出の楽しみを支援している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度、管理できる方は数千円～2万円くらい、ご自分のお財布で所持しているが殆どの方が、管理は難しく、ご家族の希望もあり、ホーム側で預かり使う際に出し入れして小遣い帳の確認となる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話や手紙は自由である。家族や友人に電話をかけたり、スタッフに手伝ってもらい、葉書等をかかわれている方もいる。又、利用者によっては通販を利用している方もいられる。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者の方が一日の大半をリビングで過ごされています。一般家庭と同じような居心地の良い場所を心掛けています。壁等に季節感のある飾り付けを行っている。又、利用者が気になり不穏状態になるものはその都度、臨機応変に排除している。	ほとんどの入居者の方が一日の大半をリビングで過ごしている。一般家庭と同じような居心地の良い場所を心掛けています。インテリアは季節感を大切にし、お雛様、鯉のぼり、X'masの飾り、正月飾りなどの行事の他は、おしゃれな空間を基本とし、落ち着いた家庭に近い雰囲気であるよう心がけている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、その中で少しはなれた場所へイス、ソファ等を置く工夫をしている。また、屋上や外庭のベンチ等を利用している。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人のお気に入りの物、思い出ある物を持って来て頂くよう話をしている。全ての物を新しくしないで欲しい事を伝えている。	入居前に本人のお気に入りの物や思い出ある物を持って来て頂くようお伝えし、居室を、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応の内部と介助バーの設置により歩行の安全性を確保しているので杖を使用したりゆっくりとご自分のペースの歩行で自らの意思で行動されている。	/	

事業所名	グループホームフィニックス
ユニット名	ゆとり

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各エント, 職員室等のいつでも見れる場所に掲示している。スタッフミーティング等で話している。ホーム設立時に職員が作ったエント名になっている。「悠々」「ゆとり」「ゆったり」を基本とし誰もが分かりやすく原点に戻れるエント名としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。地域の商店で買い物をしたり選挙や祭り、盆踊り等にも参加している。ホーム内の敷地をゴミ置き場として提供したり、災害時の避難場所として事業所を提供する旨を町内会長にも申し出をさせていただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は夜間想定避難訓練を地元消防署、町内会の協力を得て早い時期に行うことが出来た。毎月行われる自治会等、折に触れホームの状況を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6回の運営推進会議の実施は出来ていないが10月の運営推進会議で自治会長、民生委員の方たちの承諾を得ることが出来、次年度から年6回の予定を組むことが出来た。地域の方の声をミーティング等で話し合いそれを現場につないでいく努力はしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年一回西区4ホームの管理者と区役所側とで情報交換の場を設けている。高齢支援課、生活保護課には日常的に通うようにしている。今年度はキャラバンメイトの講義も担当させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0」を実践している。エレベーターの位置が死角に入るため安全のために暗証番号になっているがそれは必要と感じている。他に内階段がありフロアからはき出しの窓からは自由に出入りが出来る。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待防止の研修には各ユニットから参加している。ミーティング及び日常的に虐待防止の訴えに努めている。特に声かけ対応については注意をしている。自分が言われたら嫌な事、されたら嫌な事は絶対に言わない、しないを基本姿勢としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人のついている入居者が増えてきていることもあり、必要性は感じているがスタッフの研修回数としては少ないと思う。今後、事業所内外の研修の必要を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約成立まではある程度回数を重ねて、面談、訪問を重ねている。出来る限りご本人に一度ホームへ足を運んでもらい見学、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には必ずご本人の様子を伝えるようにしていると共に意見、要望を伺うようにしている。全てが運営に直に反映されているかという点と難しい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に聞く機会は設けていないが月1回のミーティング又は日常の会話の中で聞き取り反映につなげている。スタッフと管理者との一対一の会話は心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニット共に職員室を設け、休憩時間には完全に入居者と離れられる時間として60分間取っている。夜勤・明け・休みのパターンを極力崩さない努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修参加を心がけている。シフト的に難しいときもあるが、年々参加回数、参加人数も増やすことが出来ている。しかしまだ不足していると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所外の研修、講演会、現場研修等に参加し、他のホーム、他の事業所との交流を心がけてはいるが、もっと地域の中で実践していきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談、ご家族からの情報を得ながらご本人との会話、様子を観察し理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、心配事をスタッフ間で共有し、観察しながら一つ一つ確認し、その結果を伝えていく事から関係作りを行っている。フェイスシート等を利用し職員も把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞きながら、支援の対応を見極めている。新たな支援が必要となったときには家族と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を一緒に共有しながら過ごしている。本人の出来ることは見守り、出来ないことをサポートし、その人らしき生活出来るよう心がけている。「見て上げる」と言う気持ちになることなく「看させて頂く」の気持ちでその人に添って生活することを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出は基本的に自由にして頂いている。本人の情報を家族と共有しながら援助している。家族と過ごす時間を優先している。又それに伴い援助している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の承諾があれば友人、知人との外出等も自由である。毎週友人と外出を楽しむ入居者もいる。墓参り、旅行、結婚式等々、家族親類と楽しまれている。ただ、同行者には本人の今の状態を説明し、混乱やトラブルがないように事前に話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り会話が成立できるように努めたり、話題提供をしている。入居者同士の関係が成立している場合は、あえてスタッフはそこに入らず見守りの状態。作業、レクリエーション等は声かけはするが、あえて強制はせず、何らかの形で参加できればよいと思っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の方が多いため、特養等へ退去された利用者の家族、亡くなられた家族等が立ち寄って下さったり、相談事で来所されるケースもあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との日常的な会話の中や様子で観察するなかで、何がしたいのか、何が出来るのか、何が心配なのかを知るように努めている。それをミーティング等で話し合い、ケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや本人、家族からの話を出来る限り聞くように努め、日々の会話の中でその人の生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に対応しながら、その人に適した時間の過ごし方を考えている。記録の徹底や日々のミニミーティング、スタッフ間で共有できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティング及び月1回のミーティング、出来ることシート、出来ないことシートをケアプランに反映させている。またご家族にもお話を聞くように努めている。基本的にケアプランは三ヶ月に一度の見直しをしているが、その人の状況に応じてその都度見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌、生活日誌、連絡ノートの記入をし、ミーティング等で気づきを上げて、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所のデイサービスとの交流も図り、ボランティア来所時には誘いを受け出かけたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療への受信、自治会への参加、商店街の利用、西区役所、小中学校、幼稚園との関わり等支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の希望で自由に選択されている。受診に際しては、医療関係者と連絡ノート等を作り、情報を共有しながら支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	理事長が併設している医院の院長であり、管理者は看護師であり、併設してあるデイサービスにも常時看護師が常駐している為、支援しやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時には必ず関わりを持つようになっている。医療、家族を交えてのカンファレンスには管理者、時にはフロア責任者も必ず参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応に関わる指針」の同意を得ている。契約時にターミナルに関わる件も医師である理事長を交え家族、本人の気持ちを聞いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを手引きとして備えてはいるが、全ての職員が急変時に適切な対応が出来るかと言えば難しい。実践力を身につける訓練をしていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成13年より年2回の昼間の訓練は消防署に来てもらい実地している。平成22年に夜間対応の訓練を地域住民、消防署の協力をしてもらい実施。日中の訓練は法人として年2回をそのまま継続予定。夜間想定訓練は地域住民の協力を得て年1回を予定している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは十分に気をつけているが、行動については時々、利便性を先行してしまうスタッフもいる。声の大きさにも気になる事もある。「人生の先輩である事を忘れない支援」を基本としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のお茶や入浴時の衣類も選んで頂いている。本人の思いや希望を気楽に表現して頂けるように、そして決定していかれるように努めています。スタッフによっては、自分の意見が前に出てしまっている場面もたまに見られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は大切にしつつ、本人のペースを守るように努めている。個々の希望が全て叶えられるかという難しいが極力希望に添えるように努力してはいる。しかし、場面によってスタッフの都合優先と見受けられるときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃りへの声かけ、介助であったり、外出時の洋服選びの声かけだったりしている。女性はお化粧の嫌いな利用者が多いが毎月、来訪してくれる理容師さんへの声かけ、洋服選びの声かけ介助等努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作るまでのプロセスを楽しんでもらいたい気持ちで支援している。野菜切り、下準備、味見、盛り付け、配膳、そして後片付け、洗い物までを強要はせずに出来る方が参加をしてもらっている。食事は職員も一緒に楽しませてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が決められている利用者には毎日摂取量を記録し支援している。西区管理栄養士に年一回献立を見てもらい指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。スタッフは見守り、声かけ、又は介助をしている。義歯の方は夜間、洗浄剤等を使用し、清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用しスタッフが排泄サイクルを把握し、声掛けや誘導でサポートしている。トイレでの排泄を優先し、誘導を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を促したり、食物繊維等の摂取の工夫で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日中は勤務するスタッフが2名にて、個々の希望する時間帯では難しく大体の方が午後中心となる。失禁等あった場合はその都度対応している。又、体調に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の状態を観察しながら支援している。出来る限り日中の覚醒、離床を促し夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量に関してはユニットの薬を管理するスタッフにより、毎回整理され分かるようになっている。薬の使用目的は把握しているが副作用までの把握というと全スタッフは難しい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、裁縫、パズル、歌等その方にあつた対応を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は日常の中に取り入れているが、全員の希望を叶えられるかというところは現状難しい。日帰り温泉、初詣、菖蒲園等の対応は心がけている。同敷地内のデイサービス又、南区のデイサービスへの外出も心がけている。家族知人とは墓参り、外食、旅行等を自由に楽しんでいただきながら支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度、管理できる方は数千円～2万円くらい、ご自分のお財布で所持しているが殆どの方が、管理は難しく、ご家族の希望もあり、ホーム側で預かり使う際に出し入れして小遣い帳の確認となる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話や手紙は自由である。家族や友人に電話をかけたり、スタッフに手伝ってもらい、葉書等がかかっている方もいる。又、利用者によっては通販を利用している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者の方が一日の大半をリビングで過ごされています。一般家庭と同じような居心地の良い場所を心掛けています。壁等に季節感のある飾り付けを行っている。又、利用者が気になり不穏状態になるものはその都度、臨機応変に排除している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、その中で少しはなれた場所へイス、ソファ等を置く工夫をしている。また、屋上や外庭のベンチ等を利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人のお気に入りの物、思い出ある物を持って来て頂くよう話をしている。全ての物を新しくしないで欲しい事を伝えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応の内部と介助バーの設置により歩行の安全性を確保しているので杖を使用したりゆっくりとご自分のペースの歩行で自らの意思で行動されている。		

事業所名	グループホームフィニックス
ユニット名	ゆったり

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各エント、職員室等のいつでも見れる場所に掲示している。スタッフミーティング等で話している。ホーム設立時に職員が作ったエント名になっている。「悠々」「ゆとり」「ゆったり」を基本とし誰もが分かりやすく原点に戻れるエント名としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。地域の商店で買い物をしたり選挙や祭り、盆踊り等にも参加している。ホーム内の敷地をゴミ置き場として提供したり、災害時の避難場所として事業所を提供する旨を町内会長にも申し出をさせていただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は夜間想定避難訓練を地元消防署、町内会の協力を得て早い時期に行うことが出来た。毎月行われる自治会等、折に触れホームの状況を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6回の運営推進会議の実施は出来ていないが10月の運営推進会議で自治会長、民生委員の方たちの承諾を得ることが出来、次年度から年6回の予定を組むことが出来た。地域の方の声をミーティング等で話し合いそれを現場につないでいく努力はしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年一回西区4ホームの管理者と区役所側とで情報交換の場を設けている。高齢支援課、生活保護課には日常的に通うようにしている。今年度はキャラバンメイトの講義も担当させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0」を実践している。エレベーターの位置が死角に入るため安全のために暗証番号になっているがそれは必要と感じている。他に内階段がありフロアからはき出しの窓からは自由に入りが出来る。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待防止の研修には各ユニットから参加している。ミーティング及び日常的に虐待防止の訴えに努めている。特に声かけ対応については注意をしている。自分が言われたら嫌な事、されたら嫌な事は絶対に言わない、しないを基本姿勢としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人のついている入居者が増えてきていることもあり、必要性は感じているがスタッフの研修回数としては少ないと思う。今後、事業所内外の研修の必要を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約成立まではある程度回数を重ねて、面談、訪問を重ねている。出来る限りご本人に一度ホームへ足を運んでもらい見学、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には必ずご本人の様子を伝えるようにしていると共に意見、要望を伺うようにしている。全てが運営に直に反映されているかという点と難しい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に聞く機会は設けていないが月1回のミーティング又は日常の会話の中で聞き取り反映につなげている。スタッフと管理者との一対一の会話は心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各ユニット共に職員室を設け、休憩時間には完全に入居者と離れられる時間として60分間取っている。夜勤・明け・休みのパターンを極力崩さない努力をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修参加を心がけている。シフト的に難しいときもあるが、年々参加回数、参加人数も増やすことが出来ている。しかしまだ不足していると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	事業所外の研修、講演会、現場研修等に参加し、他のホーム、他の事業所との交流を心がけてはいるが、もっと地域の中で実践していきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談、ご家族からの情報を得ながらご本人との会話、様子を観察し理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望、心配事をスタッフ間で共有し、観察しながら一つ一つ確認し、その結果を伝えていく事から関係作りを行っている。フェイスシート等を利用し職員も把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞きながら、支援の対応を見極めている。新たな支援が必要となったときには家族と話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を一緒に共有しながら過ごしている。本人の出来ることは見守り、出来ないことをサポートし、その人らしき生活出来るよう心がけている。「見て上げる」と言う気持ちになることなく「看させて頂く」の気持ちでその人に添って生活することを心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出は基本的に自由にして頂いている。本人の情報を家族と共有しながら援助している。家族と過ごす時間を優先している。又それに伴い援助している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の承諾があれば友人、知人との外出等も自由である。毎週友人と外出を楽しむ入居者もいる。墓参り、旅行、結婚式等々、家族親類と楽しまれている。ただ、同行者には本人の今の状態を説明し、混乱やトラブルがないように事前に話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り会話が成立できるように努めたり、話題提供をしている。入居者同士の関係が成立している場合は、あえてスタッフはそこに入らず見守りの状態。作業、レクリエーション等は声かけはするが、あえて強制はせず、何らかの形で参加できればよいと思っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の方が多いため、特養等へ退去された利用者の家族、亡くなられた家族等が立ち寄って下さったり、相談事で来所されるケースもあります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との日常的な会話の中や様子で観察するなかで、何がしたいのか、何が出来るのか、何が心配なのかを知るように努めている。それをミーティング等で話し合い、ケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや本人、家族からの話を出来る限り聞くように努め、日々の会話の中でその人の生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に対応しながら、その人に適した時間の過ごし方を考えている。記録の徹底や日々のミニミーティング、スタッフ間で共有できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティング及び月1回のミーティング、出来ることシート、出来ないことシートをケアプランに反映させている。またご家族にもお話を聞くように努めている。基本的にケアプランは三ヶ月に一度の見直しをしているが、その人の状況に応じてその都度見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌、生活日誌、連絡ノートの記事をし、ミーティング等で気づきを上げて、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所のデイサービスとの交流も図り、ボランティア来所時には誘いを受け出かけたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療への受信、自治会への参加、商店街の利用、西区役所、小中学校、幼稚園との関わり等支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の希望で自由に選択されている。受診に際しては、医療関係者と連絡ノート等を作り、情報を共有しながら支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	理事長が併設している医院の院長であり、管理者は看護師であり、併設してあるデイサービスにも常時看護師が常駐している為、支援しやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時には必ず関わりを持つようになっている。医療、家族を交えてのカンファレンスには管理者、時にはフロア責任者も必ず参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応に関わる指針」の同意を得ている。契約時にターミナルに関わる件も医師である理事長を交え家族、本人の気持ちを聞いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを手引きとして備えてはいるが、全ての職員が急変時に適切な対応が出来るかと言えば難しい。実践力を身につける訓練をしていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成13年より年2回の昼間の訓練は消防署に来てもらい実地している。平成22年に夜間対応の訓練を地域住民、消防署の協力をしてもらい実施。日中の訓練は法人として年2回をそのまま継続予定。夜間想定訓練は地域住民の協力を得て年1回を予定している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは十分に気をつけているが、行動については時々、利便性を先行してしまうスタッフもいる。声の大きさにも気になる事もある。「人生の先輩である事を忘れない支援」を基本としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のお茶や入浴時の衣類も選んで頂いている。本人の思いや希望を気楽に表現して頂けるように、そして決定していかれるように努めています。スタッフによっては、自分の意見が前に出てしまっている場面もたまに見られる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は大切にしつつ、本人のペースを守るように努めている。個々の希望が全て叶えられるかという難しいが極力希望に添えるように努力してはいる。しかし、場面によってスタッフの都合優先と見受けられるときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃りへの声かけ、介助であったり、外出時の洋服選びの声かけだったりしている。女性はお化粧の嫌いな利用者が多いが毎月、来訪してくれる理容師さんへの声かけ、洋服選びの声かけ介助等努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作るまでのプロセスを楽しんでもらいたい気持ちで支援している。野菜切り、下準備、味見、盛り付け、配膳、そして後片付け、洗い物までを強要はせずに出来る方が参加をしてもらっている。食事は職員も一緒に楽しませてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が決められている利用者には毎日摂取量を記録し支援している。西区管理栄養士に年一回献立を見てもらい指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。スタッフは見守り、声かけ、又は介助をしている。義歯の方は夜間、洗浄剤等を使用し、清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用しスタッフが排泄サイクルを把握し、声掛けや誘導でサポートしている。トイレでの排泄を優先し、誘導を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を促したり、食物繊維等の摂取の工夫で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日中は勤務するスタッフが2名にて、個々の希望する時間帯では難しく大体の方が午後中心となる。失禁等あった場合はその都度対応している。又、体調に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の状態を観察しながら支援している。出来る限り日中の覚醒、離床を促し夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量に関してはユニットの薬を管理するスタッフにより、毎回整理され分かるようになっている。薬の使用目的は把握しているが副作用までの把握というと全スタッフは難しい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、裁縫、パズル、歌等その方にあった対応を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は日常の中に取り入れているが、全員の希望を叶えられるかというところは現状難しい。日帰り温泉、初詣、菖蒲園等の対応は心がけている。同敷地内のデイサービス又、南区のデイサービスへの外出も心がけている。家族知人とは墓参り、外食、旅行等を自由に楽しんでいただきながら支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度、管理できる方は数千円～2万円くらい、ご自分のお財布で所持しているが殆どの方が、管理は難しく、ご家族の希望もあり、ホーム側で預かり使う際に出し入れして小遣い帳の確認となる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に電話や手紙は自由である。家族や友人に電話をかけたり、スタッフに手伝ってもらい、葉書等がかかっている方もいる。又、利用者によっては通販を利用している方もいられる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの入居者の方が一日の大半をリビングで過ごされています。一般家庭と同じような居心地の良い場所を心掛けています。壁等に季節感のある飾り付けを行っている。又、利用者が気になり不穏状態になるものはその都度、臨機応変に排除している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、その中で少しはなれた場所へイス、ソファ等を置く工夫をしている。また、屋上や外庭のベンチ等を利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご本人のお気に入りの物、思い出ある物を持って来て頂くよう話をしている。全ての物を新しくしないで欲しい事を伝えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応の内部と介助バーの設置により歩行の安全性を確保しているので杖を使用したりゆっくりとご自分のペースの歩行で自らの意思で行動されている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホームフィニック

作成日

平成23年11月28日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域運営委員会の充実	概ね、二ヶ月に一度の開催に少しでも近づけるように努力する。	10月の運営推進会議で年間の開催日の予定を決めることが出来た。	一年
2	35	災害対策 地域的に津波の心配はないが火災、地震が起きた場合（特に夜間）の実践的訓練の必要性がある。	入居者もスタッフも安全に速やかに避難出来るようにする。	火災、地震に対応した。特に夜間想定の実践的訓練を地域に協力を得ながら年一回は実施して行きたい。その為に、運営推進会議で協議して行きたい。	一年
3	13	現状におけるスタッフの研修不足。	事業所内外での研修の充実とスタッフの質の向上と確保。	年々、研修の参加回数、人数は増えてきているが、スタッフの質の向上、確保の為にもしっかりと充実させたい。自己評価の記入にも問題の主旨が分からないスタッフもいるのが現状。基本の研修から今年度は取り組みたい。	一年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

ス